

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

福山原料化工場

(2) 事業所の所在地

〒721-0956 広島県福山市箕沖町113番地

(3) 業種

8816 ごみ処分量

2 計画の期間

本計画の期間は、平成27年度を基準年度とし、平成28（2016）年度から令和2（2020）年度までの5年間とする。

### 3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量 (a)		目標年度		計画期間の実績 (上段:実排出量 (d), 下段:削減量の対基準年度比 (e))							
	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度
エネルギー起源CO <sub>2</sub>			0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>			0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン			0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素			0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他温室効果ガス			0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス実排出量総計			0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガスみなし排出量												
実績に対する自己評価	当工場では廃プラスチックを「高炉」と「材料」の2手法でリサイクルしているが、「材料」は選別・洗浄等の工程が必須で「高炉」よりも大きな電力エネルギーを使用する。基準の平成27年度は「材料」10.9千t (全処理量の36%)であったが、令和元年度は14.5千t (全処理量の46%)と大きく増加した。そのため、原単位平均1%以上改善が未達となった。											

※ 削減率 (c) = (b) - (a) / (a) × 100 削減量の対基準年度比 (e) = (a) - (d) / (a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： 処理量(t)

温室効果ガスの種類	基準年度の実績 (a)		目標年度		計画期間の実績 (上段:原単位実績 (d), 下段:削減量の対基準年度比 (e))					
	平成27年度	令和2年度 (平成32年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度			
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	0.285	0.271	0.293	0.311	0.314	0.291				
		-4.9	-2.8	-9.1	-10.2	-2.1	100.0			
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
その他温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
温室効果ガス排出量総計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	0.103	0.098	0.106	0.112	0.119	0.119				
		-4.9	-2.9	-8.7	-15.5	-15.5	100.0			
実績に対する自己評価	当工場では廃プラスチックを「高炉」と「材料」の2手法でリサイクルしているが、「材料」は選別・洗浄等の工程が必須で「高炉」よりも大きな電力エネルギーを使用する。基準の平成27年度は「材料」10.9千t (全処理量の36%)であったが、令和元年度は14.5千t (全処理量の46%)と大きく増加した。そのため、原単位平均1%以上改善が未達となった。									

※ 削減率 (c) = (b) - (a) / (a) × 100 削減量の対基準年度比 (e) = (a) - (d) / (a) × 100

#### 4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

##### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

項目	削減量等	具体的な取組み
1 燃料使用量の削減	燃料使用量を原単位で1%/年削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乾燥機燃料の都市ガス使用量削減を目的に以下の項目を継続して実施。               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 温度設定のキメ細かな管理。</li> <li>2) 高炉手法でのバーナーレス操業の計画的な実施。</li> </ol> </li> <li>・車両燃料の経由使用量削減を目的に以下を継続して実施。               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 運搬車両・工場内重機のアイドリングストップの徹底。</li> <li>2) 高炉製品運搬車両の積載量アップによる運搬効率 (t/L) 向上。</li> </ol> </li> </ul>
2 電気使用量の削減	電気使用量を原単位で1%/年削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷暖房温度の適正管理を継続して実施。</li> <li>・設備の省電力化として以下を継続して実施。               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一部機器の停止。</li> <li>2) 操業一斉停止日を設定。</li> <li>3) 製品製造設備への保温材敷設によるヒータ電力使用量の削減。</li> <li>4) 高能率操業化による電力原単位削減。</li> </ol> </li> </ul>
3		
4		

##### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み (環境価値の活用等)

種類	合計量
1	
2	
3	

##### ○ その他の取組み

項目	削減量等	具体的な取組み
1 周辺地域への貢献		<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季のグリーンカーテン実施</li> <li>・工場見学等の積極的な受け入れ</li> </ul>
2 品質環境マネジメントシステム	毎年度エネルギー目標値を設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・品質・環境マネジメントシステムの導入</li> <li>・ISO9001・14001取得</li> <li>・グリーン購入の推進</li> </ul>
3		

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。